

事務事業名	甲西図書館子どもの読書活動推進事業		所属部局	教育委員会		単位番号	12461					
	☐ 実施計画事業		所属課室	市立図書館		課長名	深澤知恵美					
			所属担当	甲西図書館		担当者名	上田 弥生					
基本政策	基本計画体系	V	個性と文化を育む都市づくり		予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目
政 策		22	生涯学習ネットワークの整備充実		事業区分	01	一般	10	04	04	060	08
施策		35	生涯学習システムの推進									
事業期間	☐ 単年度のみ ☐ 単年度繰返 (開始年度 15 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)		法令根拠	図書館法 南アルプス市立図書館条例								
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載					事業費の主な内訳 (24年度 決算見込)						
	子どもの発達段階に応じた読書支援					項目(細節)	金額(千円)	項目(細節)	金額(千円)			
	・おはなし会・おはなし会スペシャル・英語のおはなし会・安藤家おはなし会等の開催					消耗品費	28					
	・工作教室・科学教室・保育所出前サービス・読書フェスタ・クリスマス会等の開催											
	・絵本講座(親子で楽しむ絵本の会)及び出前絵本講座の開催											
・図書館見学・職場体験等の受け入れ												
								計 28				

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 活動	
24年度活動実績	・おはなし会の開催 各種行事の開催・図書館見学・職場体験等
25年度活動予定	
② 対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	
子どもとその保護者	
③ 意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていくのか、どのように変えるのか)	
本の楽しさを知り、本や図書館に親しむようになる。	
④ 上位目的(どのような結果に結び付けるのか)	
児童書の貸出冊数が増える。	

⇒ ⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア おはなし会の開催回数	回数
イ 各種行事の開催回数	回数
ウ 図書館見学・職場体験の実施回数	回数
⇒ ⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア おはなし会の参加人数	人数
イ 各種行事の参加人数	人数
ウ 図書館見学・職場体験の参加人数	人数
⇒ ⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 18歳以下の貸出点数	点数
イ 18歳以下の利用人数	人数
ウ	
⇒ ⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 児童書の年間貸出点数	点数
イ	

(2) 事業費・指標の推移				単位	23年度 (決算・実績)	24年度 (決算見込・実績)	25年度 (予算・目標)	26年度 (次年度計画・目標)	27年度 (計画・目標)	28年度 (計画・目標)	最終 (トータルコスト・目標)	年度
年間 トータル コスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円								
			県支出金	千円								
			地方債	千円								
			その他	千円								
			一般財源	千円	30	30	30	30	30		0	
	事業費計 (A)		千円	30	30	30	30	30	0	0		
	人件費	正規職員従事人数		人	1	1	1	1	1	1	0	
		延べ業務時間		時間	448	434	434	434	434	434	0	
		人件費計 (B)		千円	1,775	1,720	1,720	1,720	1,720	1,720	0	
		(A)+(B)		千円	1,805	1,750	1,750	1,750	1,750	1,720	0	
活動指標		アイウ	回数	58.0	55.0	55.0	55.0	55.0	55.0			
		アイウ	回数	11.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0			
		アイウ	回数	2.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0			
対象指標		アイウ	人数	1,233.0	1,064.0	1,095.0	1,127.0	1,160.0	1,194.0			
		アイウ	人数	290.0	311.0	320.0	329.0	338.0	348.0			
		アイウ	人数	4.0	155.0	159.0	163.0	167.0	172.0			
成果指標		アイウ	点数	10,832.0	10,143.0	10,447.0	10,760.0	11,082.0	11,414.0			
		アイウ	人数	1,437.0	1,265.0	1,362.0	1,341.0	1,381.0	1,422.0			
		アイウ										
上位成果指標		アイウ	点数	27,452.0	26,477.0	27,271.0	28,089.0	28,931.0	29,798.0			
		アイウ										

(3) この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか？	H17年7月23日に市立甲西図書館としてリニューアルオープンした。当時より、地域館の特色を生かし、児童書の収集・充実、また子育て支援等読書活動の場の提供に力を入れている。
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか？また、今後の予測は？	図書館としての環境も年々整い、利用者・利用冊数・事業参加者が増えた。
③ 事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか？	毎週、また毎月行っているおはなし会や様々な事業は好評で、参加者が年々増えている。また、参加者からは、「楽しみにしている」と言う声もよせられている。

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は？	☒ 取り組みしている ⇒【内容↓】 ☐ 取り組みしていない ⇒【理由↓】
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過(取り組みしていない場合はその理由)	おはなし会を毎週木曜日と毎月第2土曜日に実施し、また、他課との合同事業として外国語のおはなし会・安藤家おはなし会等の開催や工作教室・科学教室・保育所出前サービス・読書フェスタ・クリスマス会等をしてきた。他、絵本講座(親子で楽しむ絵本の会)及び出前絵本講座の開催・図書館見学・職場体験等を実施してきた。
③ H 24年度に実施した改革改善の内容	甲西児童館と連携し、「春のおはなし会スペシャル」「詩を楽しむ会」などをおこなった。また、文化財課合同の「安藤家でおはなし会と昔遊びの会」、国際交流協会合同「外国語のおはなし会」等のさらなる充実に努めた。

事務事業名	甲西図書館子どもの読書活動推進事業	所属部	教育委員会	所属課	市立図書館
-------	-------------------	-----	-------	-----	-------

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由↓】 南アルプス市子どもの読書推進活動計画に結びついている。
	② 公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？ 民間やNPO、市民協働に移行することは可能か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由↓】 南アルプス市子どもの読書活動を推進するためには必要な事業である。現在事業の実施にあたっては、図書館ボランティア等の協力を得ている。 事務事業の全部もしくは一部を外部に移行することが可能である。 ☐ 民間・NPO ☐ 市民協働
	③ 維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 適切である ⇒【理由↓】 事業に参加する子どもたちとその保護者を対象としているので妥当である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 今後さらに事務事業の成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ かなり向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ ある程度向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 向上余地がない ⇒【理由↓】 特色ある図書館事業を計画することで、より充実したサービスを提供できる。また、他課との合同事業をさらに進めていくことで成果を向上させることができる。
	⑤ 類似事業との統合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☒ 類似事務事業がある ⇒(類似する事務事業の名称を記入↓) ☒ 統合・連携ができる ⇒【理由と具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 統合・連携ができない ⇒【理由↓】 読書活動推進のために、身近な図書館での事業は必要である。
	⑥ 休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☒ 影響なし ☒ 影響あり ⇒【理由と影響の内容↓】 南アルプス市の子どもたちが、小さいときから身近な場所で本にふれ、楽しむ機会をつくることは大切である。 ☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない ⇒【理由↓】 南アルプス市の子どもたちが、小さいときから身近な場所で本にふれ、楽しむ機会をつくることの大切さを考えると休止・廃止できない。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 年間3万円の事業である。全職員で様々な企画をし、工夫をした運営をしている。これ以上の削減は無理である。
	⑧ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 正規職員1人、常勤臨時職員2人の3人体制で実施している事業のため、これ以上の削減の余地はない。また事業の実施にあたっては、図書館ボランティア等の協力を得ている。
公平性 評価	⑨ 受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 公平・公正である ⇒【理由↓】 事業への保護者の理解やより多くの子どもたちの参加を呼びかけるためには、各団体等との連携や広報活動をより充実していく必要がある。今後も児童館等との連携した事業を行い更なるPRに努めたい。

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり	・少ない予算の中で、職員一丸となって、工夫した企画運営がされている。平成23年度からは、児童館・文化財課と連携した事業も積極的に取り組んでいる。更に広報活動を積極的に行い成果を挙げたい。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可 ☐ 廃止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携(有効性⑤の結果) ☒ 公平性改善(公平性⑨の結果) ☐ 休止(目的妥当性①、②、③の結果) ☒ 成果向上(有効性④の結果) ☒ 現状維持(全評価項目で適切) ☐ 必要性検討(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ コスト削減(効率性⑦、⑧の結果) (2) 改革改善案について ① ② ③		(3) 改革・改善による方向性 <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト水準</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果水準</th><th>向上</th><td>☐</td><td>☒</td><td>☐</td></tr><tr><th>維持</th><td>☐</td><td>☐</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td>☐</td><td></td><td></td></tr></table> ※ 廃止・休止の場合は記入不要 (5) 事務事業優先度評価結果 成果優先度評価結果 ⑤ コスト削減優先度評価結果 ⑨				コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☒	☐	維持	☐	☐		低下	☐		
		コスト水準																						
		削減	維持	増加																				
成果水準	向上	☐	☒	☐																				
	維持	☐	☐																					
	低下	☐																						
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策 ① 甲西図書館の立地条件を生かし、他課との連携事業を更に充実させ、読書推進事業を実施していく。 ② この事業の内容をより多くの子どもたちに知らせるためには、保育所や学校・児童館等、子どもと関わる施設を通して保護者へPRが必要である。また、出前サービス等図書館ボランティアと協働して様々な事業を実施していく。																								